

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】令和 3 年 7 月 26 日 (2021.7.26)

【公表番号】特表 2020-522567 (P2020-522567A)

【公表日】令和 2 年 7 月 30 日 (2020.7.30)

【年通号数】公開・登録公報 2020-030

【出願番号】特願 2020-516787 (P2020-516787)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/4545 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 P 17/00 (2006.01)

A 6 1 P 17/02 (2006.01)

A 6 1 P 1/16 (2006.01)

A 6 1 P 11/00 (2006.01)

A 6 1 P 13/12 (2006.01)

A 6 1 K 31/18 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 31/4545

A 6 1 P 43/00

A 6 1 P 17/00

A 6 1 P 17/02

A 6 1 P 1/16

A 6 1 P 11/00

A 6 1 P 13/12

A 6 1 K 31/18

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 5 月 31 日 (2021.5.31)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

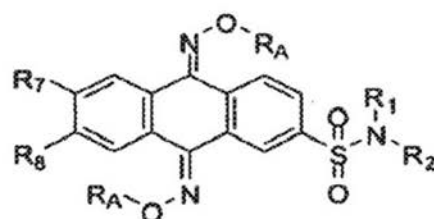
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

線維性疾患を治療および / または予防する ための医薬組成物 であって、
式 I :

【化 1】



式 I

[式中、

R_A は水素であり、

R₇ および R₈ は独立して、H および SO₂NR₃R₄ から選択され、

R_7 および R_8 のうちの 1 つは水素であり、

R_1 、 R_2 、 R_3 、および R_4 はそれぞれ独立して、H、アルキル、ヘテロアルキル、シクロアルキル、アリールシクロアルキル、アリール、ヘテロアリール、ヘテロシクロアルキルから選択され、 NR_1R_2 および NR_3R_4 のそれぞれが、独立して、組み合わされてヘテロシクロアルキルを形成することができ、前記アルキル、ヘテロアルキル、シクロアルキル、アリールシクロアルキル、アリール、ヘテロアリール、またはヘテロシクロアルキルは、任意に置換されていてもよい。]

の化合物、またはその薬学的に許容される塩、エステル、アミド、立体異性体、幾何異性体、もしくはプロドラッグを含む、医薬組成物。

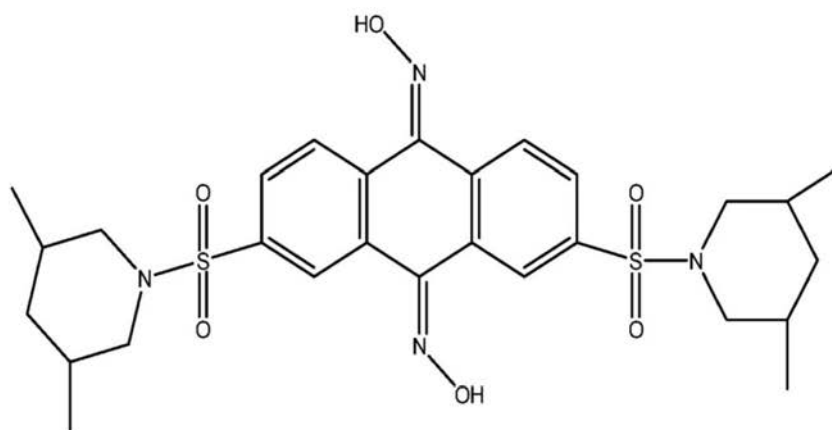
【請求項 2】

NR_1R_2 および NR_3R_4 は独立して、環中に 1 個の窒素を含む 6 ~ 15 員ヘテロシクロアルキルである、請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 3】

前記式 I の化合物が、以下の構造：

【化 2】



を有する、請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 4】

前記線維性疾患が、肺線維症、デュピュイトラン拘縮、強皮症、全身性硬化症、皮膚硬化を伴わない強皮症様障害、肝硬変、間質性肺線維症、ケロイド、慢性腎疾患、慢性移植片拒絶、および他の瘢痕 / 創傷治癒異常、術後癒着、反応性線維症からなる群から選択される、請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 5】

前記疾患が肺線維症である、請求項 4 に記載の医薬組成物。

【請求項 6】

前記疾患がデュピュイトラン拘縮である、請求項 4 に記載の医薬組成物。

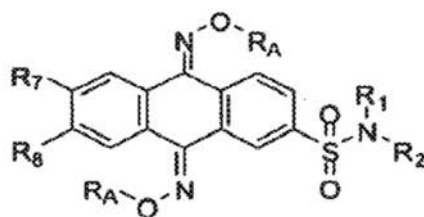
【請求項 7】

前記疾患がケロイドである、請求項 4 に記載の医薬組成物。

【請求項 8】

肺線維症を治療するための医薬組成物であって、式 I：

【化 3】



式 I

[式中、

R_A は水素であり、

R_7 および R_8 は独立して、H および $SO_2NR_3R_4$ から選択され、

R_7 および R_8 のうちの 1 つは水素であり、

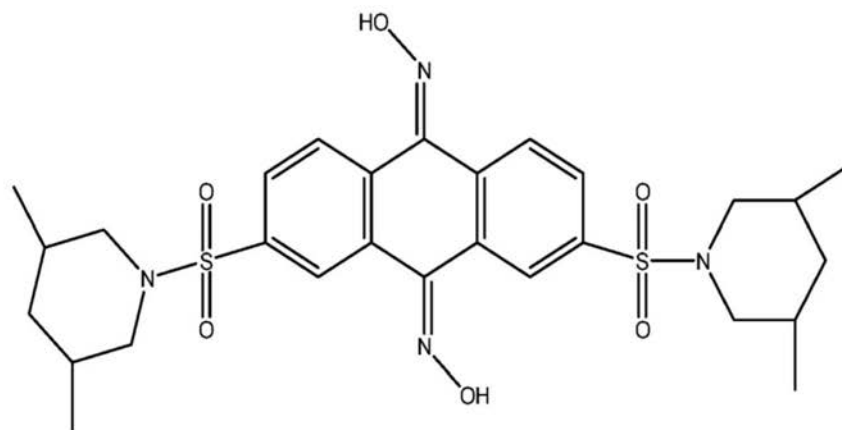
NR_1R_2 および NR_3R_4 は独立して、環中に 1 個の窒素を含む 6 ~ 15 員ヘテロシクロアルキルである。]

の化合物、またはその薬学的に許容される塩、エステル、アミド、立体異性体、もしくは幾何異性体を含む、医薬組成物。

【請求項 9】

前記式 I の化合物が、以下の構造：

【化 4】



を有する、請求項 8 に記載の医薬組成物。

【請求項 10】

前記医薬組成物が、静脈内、非経口、経口、吸入（エアロゾル化送達を含む）、頬側、鼻腔内、直腸、病巣内、腹腔内、皮内、経皮、皮下、動脈内、心臓内、脳室内、頭蓋内、気管内、髄腔内投与、筋肉内注射、硝子体内注射、および局所適用の方法のうちの 1 つ以上を通じて投与される、請求項 1 ~ 9 のいずれかに記載の医薬組成物。